

〔植物ニュース〕

ヒメフウロ, シオヤキソウ

Geranium robertianum

横内 文人 (東筑摩郡四賀村合田110)

本種の花は、淡紅色で、径約1.5cmである。茎はよく分枝し、基部は倒れている。葉は薄くてやわらかく、全3裂し、各小葉は1~2回羽状に深裂している。日本では、本州（滋賀県、岐阜県、三重県）及び四国（剣山）の石灰岩地に限られている（日本の野生植物Ⅱ p.220）。

本種が穂高町の路傍で7株生育しているのを見つけた。K製菓工場に近い場所であるから車の往来による移動であろうか。長野県では、初採集である。

清水建美先生にご同定いただきました。感謝します。

標本：SHIN 185396（南安曇郡穂高町穂高等々力、1998年7月25日）

ユウシュンラン

Cephalanthera erecta var. *subaphylla*

との出会い

霜田芳武（上田市緑が丘2-6-11）

1998年の春、ナガハシスミレの距の特徴をスライドにしたいと思っていたときに、知人から野尻湖周辺によい場所があると連絡を受けた。この年は例年より陽気が1週間以上も進んでいるため開花期が定かではないけれども4月29日に現地へ出掛けてみた。しかし花は盛りを過ぎておりカメラに納めるようなテングスミレは見つからない。尚も探している

と、雑木林の道路法面に爪楊枝のような細い茎の上に米粒を乗せたような小さい得体の知れない植物があった。気にしながらも先に進み、日当たりのよい法面に出ると高さ7センチメートルほどの茎の上に先ほどの米粒が開花していた。さらに4個体見つかる。茎はギンランに酷似、花は距を突き出してランの顔をしている。まずは写真に撮って帰ることにした。帰宅してから図鑑を調べると「ユウシュンラン ギンランの変種か云云極めて希」とある。改めて出会いの大きさに感動した。本種は長野県植物誌（1997）の1499頁によれば、本県では未確認種とされているので、ここに長野県での自生が確認されたことになる。

ミドリヒメザゼンソウ

Symplocarpus nipponicus f. *viridispathus*
Ohara

川上美保子（上田市古里2117）

渋沢美佐緒（上田市常田1-5-9）

岐阜県高山市で発見され植物地理分類研究33巻の81頁に報告されたミドリヒメザゼンソウを長野県大岡村で自生を確認したので、長野県新産の植物として報告する。これは、大岡村村誌自然編の調査中に発見されたもので、生育地は長野県更級郡大岡村樋知大神社（標高1,080m）近くの湿性の落葉樹林内であった。

現地にはヒメザゼンソウが多数群生しており、その中に点々と混生していた。

最後に同定の労をとって頂いた清水建美先生にお礼を申し上げます。